

令和三年度卒業証書授与式 式辞

丹波篠山市立篠山中学校

きたえし技は晴れの場に きたりて万朶(ばんだ)の花とさく

篠山中学校応援歌の一節です。万朶(ばんだ)の花とは、桜の花の芽が、冬の間、固い皮の中で耐え、春になるといっきに、いっばいに広がり咲き誇る様子をさしています。中学生活の大半を、新型コロナウイルス感染対策の中で過ごし、学習も生活も制限され、耐えながらも、工夫し、努力した三年間。令和三年度、第七十二回卒業証書授与式で、卒業生の万朶(ばんだ)の花が咲き誇っています。

また、全校生徒とその家族の方、そして、常日頃、感染症対策のためにご支援くださった関係機関の方々や、応援していただいている地域の方々のおかげで、今日の佳き日をむかえることができました。本日、ご臨席いただきました丹波篠山市教育長 丹後政俊(たんごまさとし)様、丹波篠山市副市長 堀井宏之(ほりいひろゆき)様をはじめとする学校関係者の皆様、保護者の皆様の協力を厚くお礼申し上げます。

さて、百二十四名の皆さん、卒業おめでとうございます。今、義務教育終了という、大きな節目を迎えました。これから、皆さんはそれぞれが選んだ道へと一歩踏み出します。卒業証書は、三年間の成長の証であり、これからの人生への入場券であると思ってください。

今から三年前、私は皆さんの入学と同時期に本校に着任し、皆さんの中学生としての歩みを見てきました。入学式、皆さんの代表は「篠山中学校でともに学ぶ仲間たちとともに、協力し、助け合いながら一步一步進んでいきたいです。」と誓いの言葉を述べました。中学校生活のスタートは新たな出会いに胸躍る一方で、大集団、思春期と相まって、仲間づくり、居場所さがして様々な葛藤があったことと思います。そんな中で、新型コロナウイルス感染拡大、そして、長期休業となりました。行動が制限され、試練がありました。先が見通せず不安だったと思います。しかし、この辛さの中で、皆さんは、命や健康の安心、仲間や家族の絆など、当たり前と考えていたものの大切さに気づき、支え合う集団に成長していきました。

学習や生活を取り戻そうと、真剣に授業に取り組みました。積極的に手を上げ、意見をかわし、新しい考えを生み出す授業を行い、休業期間を挽回して、あまりある学習ができました。部活動においても、仲間と支え合い、ひたむきにプレーし、県大会出場をはじめ多くの成果を残しました。生徒会主催の人権学習で警察署において人権漫才を披露するなど自治的な活動も活発に行いました。

三年生になってからも、学校行事に制限がありましたが、体育祭では、力強い演技は素晴らしく、仲間と過ごす一瞬一瞬を大切に思う思いの強さを感じました。文化祭では、短い時間の中で合唱とダンスをつくりあげ、仲間の絆の強さを声と体を使って表現しました。ユニバーサルスタジオジャパンでの修学旅行、代替行事となりましたが思う存分楽しみました。どの行事でも、ベストな答えを求めて工夫しました。そして、大人や仲間への感謝の言葉を忘れませんでした。

新型コロナウイルスの話題で暗くなりがちな世の中にあっても、元気に、エネルギーに物事に取り組み、協力して乗り越えました。それが、皆さんのもつ強さであり、生きる力の根源になっていくと思います。

つきない思い出を、心のアルバムに納めつつ、これから描く人生の未来地図を一つの言葉で心から祝福したいと思います。

『何も咲かない寒い日は、下へ下へと根をのばせ。やがて大きな花が咲く』

皆さんは家族に見守られ、この世に生を受けました。しかし、今日まで、決して平穩無事な毎日ではなかったはず。今日を迎えられたのは、愛情に満ちた家族や地域の方の支えがあったからです。「おかげさまで卒業しました」と感謝の気持ちを伝えるとともに、命の大切さを改めて考え、これから強く生き抜く決意をしてください。

ポストコロナ社会では、答えがすぐ見つかることはなく、何が普通で何が当たり前であるか問い直し、他者と協力して、自分なりの正解を見つけ、生活を創る発想が大切になります。そこは、可能性の数だけ試練もある社会であると思われま。

人間の値打ちは、楽しいときや嬉しいときより、むしろ苦しいときや辛いときのふんばりにこそ、その真価が表れます。厳しい冬の寒さを堪え忍んで美しい花を咲かせる桜のごとく、これから遭遇する課題に対して、『焦らず あわてず あきらめず』、目の前にあること一つ一つに挑戦し、時には、失敗の中にある価値も学び、人としての根をはってください。そして、自分らしい夢の花を咲かせて欲しいと願っています。

次に、保護者の皆様に一言、お祝いを申し上げます。お子様のご卒業、誠におめでとうございます。今から十五年前、子どもたちは、ご両親から一つの命を授けられました。その命は、今、頼もしく燦然と輝きをはなっています。ここ数年の困難な時代であったからこそ、それを乗り越えてきたお子様の晴れ姿に感激ひとしおのものがあるかと思ひます。本日を人生の節目として、今後とも立派に自立され、個性豊かな人間として成長されますよう、心からお祈り申し上げます。

また、三年間、篠山中学校の教職員一丸となって、子どもたちの成長を見守りつつ、精一杯努力したつもりではありますが、いたらない点もあったと思ひます。それにもかかわらず、私たちにお寄せくださいましたご理解とご協力に対して厚く御礼申し上げます。

では、卒業生のみなさん、いよいよ旅立ちの時が近づいてきました。ふるさと丹波篠山で学んだことを誇りに思ひ、この素敵な仲間たちと過ごした喜びを胸に刻んで、これからの人生を歩んでいってください。教職員、在校生、保護者や地域の方々とともに、卒業生の皆さんの輝く未来を応援し式辞とします。

令和四年三月十四日

丹波篠山市立篠山中学校長

細見博文